



堀堀
江藏本
江成受持



類題世說新花笈集

四月

卯月

初夏

短夜

明安夜

夏夜

大矢數

愒

汗

汗手拭

扇

團扇

滋團扇

日傘

設屏風

夏座鋪

午睡

牡丹

芍藥

燕子花

芥子

美人草

葵

花葵

一八

麥秋

麥刈

玉卷芭蕉

箬	散松葉	岩藤	柿花	卵花	又々葉	余花	覆盆子
篠子	茂	花橋	推花	桐花	葉柳	若楓	蛇 <small>いりこ</small>
豌豆	夏草	竹落葉	藪椿	茨花	葉櫻	新樹	若葉
夏水立	青 <small>芒</small>	常盤 <small>落葉</small>	岩梨	花抽	櫻花實	木下閣	若葉花

鶴	水馬	蚤	蠅	枝蛙	蝙蝠	行 <small>こ</small> 子	落
通鴨	鼓虫	蚋	蚊	初松魚	蚊喰鳥	段割	蓴菜
翡翠	蠶	蛭	蚊遣	螢	羽蟻	老鶯	郭公
鶉	青鷺	子子	蚊柱	蝸牛	蜘蛛子	鶯音入	閑子鳥

夏篔	花摘	竿花	一夜酒	冷酒	綿枝	更衣	鵜川
青簾	夏入	灌佛	風爐茶	鮓	新茶	白重	鵜舟
	夏花	仙生會	筑摩祭	早鮓	新麥	初裕	鵜簞
	夏書	花見堂	葵	柱立し	青さし	裕	築

目二

藻刈	田植	田植	莒蒲賣	船風	入梅	幟	五月
萍	早乙女	早乙女	莒蒲湯	黒丸一	五月雨	藥玉	皋月
花莒蒲	早苗	早苗	花且見	半夏生	五月晴	印地打	端午
紅乃花	藻刈花	早苗舟	真菰刈	莒蒲音	五月闇	虎々雨	藥之日

紫蘓	澤瀉	秋近	籠枕	嘉定	土用	夏山	打水
茗荷花	夕顏	夏深	夏瘦	嘉定錢	土用于	夏野	清水
虎杖花	昼負	夏別	秋待	葦	虫干	夏乃海	泉
麻	綿花	蓮	秋隣	竹婦人	晒井	夏此露	夏川

鞍馬竹切	富士詣	冷麥	水餅	火取虫	凌霄	瓜	菅苳
雨乞	祇園會	煮梅	一夜酒	夏虫	早桃	冷瓜	青田
御拔	鉾	干梅	葛水	毛虫	林橘	甜瓜	田草取
秋代	座頭涼	沖鱈	心太	川持	練雲雀	葛花	小角豆

芽比輪

夏神樂

雷陣

施米

類題發句新花笈集

春星堂寫宿
井圃庵眉山編
淺生庵奉一校

夏之部

四月

うきよのなかに報るる夏は四月の末
あはれなき毛並み種阿るは月之成
きほふる阿はしつる四月の成
あも文持のうきよの末は四月の末
梅室
乙良
匡家
可成

非月

初夏
短夜

子ささくふおれあてりて月さ	荷橋
お月世や摺大ふをれるおらりて	多ふあ
水重代をや世も立お月うぬ	龍口
お喜りるりて引出はれお月さ	登水
白濱此まへり照る所お月が	鬼水
水産の葉もおさくお月うふ	物室
お川夏此おに都さく心河流るぬ	文翠
おらるおふまや藤の心さうふ	由哲
おらるおとあつて橋や油皿	而店
おらるおれ量りおらるぬお左下	物裡

明安夜

おらるおや藤此高き一人も指は	夢心
おらるおを人の心おらるぬうぬ	知路
おらるおや藤うぬをぬ此言	宜和
おらるおも新水も澄き一人も	孝一
おらるおやおもをぬ市魚	井月
おらるおや一際歩く山此歌	山行
おらるおやあつておらるぬ川	逢則
おらるおやあつておれ由とをうふ	玉号
おらるおやあつておらるぬ	耳古

夏夜 大矢敷 悔

明あま探れ言深し 業をすけ 涼喉
 明あま探れも由もや 筆はね 一帯
 夏は探れやめく 海に白く 雨如
 夏は探れやめく 石を以て 物至
 新雨も非れちしや 大矢敷 湯蓋
 尺を指すも眼破き 深し 玉座
 新や木はかゝりし 大矢敷 草一
 明く探れ 戸ふおし 平敷 影を
 明く探れ 入道 高き 故性 玉座
 悔の身もちて 平敷 影を 玉座

汗

汗 明く探れ 戸ふおし 平敷 影を 玉座
 明く探れ 入道 高き 故性 玉座
 悔の身もちて 平敷 影を 玉座
 明く探れ 戸ふおし 平敷 影を 玉座
 明く探れ 入道 高き 故性 玉座
 悔の身もちて 平敷 影を 玉座
 明く探れ 戸ふおし 平敷 影を 玉座
 明く探れ 入道 高き 故性 玉座
 悔の身もちて 平敷 影を 玉座
 明く探れ 戸ふおし 平敷 影を 玉座
 明く探れ 入道 高き 故性 玉座
 悔の身もちて 平敷 影を 玉座

汗手拭

汗はまふりや柄と花乃百一
 汗ぬきい流ふや加茂代新夜
 きききき干高きあり汗ぬき
 草木あもなき風の何々扇の申
 又ききき流れ申うーや白扇
 あくあふふふてあくくあふき
 灰ふ入るきやんぬぬ代あふき
 子代柄く、双も柄とく扇系
 ふくくくもあふふふや扇系
 色あ新すもの扇を柄の物
 清良

扇

團扇

ききき、あふや扇扇のきき
 とらりりりりりりりりりりり
 とり中れ柄うー柄くうらりり
 とり扇を扇うる扇扇きひり
 おろりりりりりりりりりり
 扇扇扇扇扇扇扇扇扇扇扇
 取うるもの扇扇扇扇扇扇扇
 板橋代申うりりりりりりり
 柄扇扇扇扇扇扇扇扇扇扇
 支のきききききききききき
 扇山

日傘

深窓扇

葭屋風

まをれと山も人遠くわが葭屋風
けをりて聲なきや葭屋風
池所

夏座鋪

花石やわが水も山夏座
地河やわが水も山夏座
映門

風船やわが水も山夏座
浪高れつと水も山夏座
浪高

掛もりも夏座
掛もりも夏座
一池

も水好らむ山夏座
も水好らむ山夏座
鳳樓

葭に申す水も山夏座
葭に申す水も山夏座
高了

それあやに葭に申す水も山夏座
それあやに葭に申す水も山夏座
東巨

午腫

樹にそよ風眼のあそびひく
樹にそよ風眼のあそびひく
一池

伐りけり退き眼もさ
伐りけり退き眼もさ
石叟

西風のあそびひく
西風のあそびひく
祇白

牡丹にそよ風眼のあそびひく
牡丹にそよ風眼のあそびひく
芳英

申すれそよ風眼のあそびひく
申すれそよ風眼のあそびひく
内哲

風をけりそよ風眼のあそびひく
風をけりそよ風眼のあそびひく
林香

白くそよ風眼のあそびひく
白くそよ風眼のあそびひく
嵩山

細うけそよ風眼のあそびひく
細うけそよ風眼のあそびひく
多女

細うけそよ風眼のあそびひく
細うけそよ風眼のあそびひく
多女

細うけそよ風眼のあそびひく
細うけそよ風眼のあそびひく
多女

牡丹

芥子花

蕪子花のふんをわくく少路うさふ
 恒介もあやゆんをわくくまはるく
 五箇此うけつ流らんくあまき体情
 水も眼のまきはれんやうまはるく
 うまはるくあまき体情のまきはるく
 一化
 杜鴻
 一化
 雪宝
 成年

美人草

美人草のふんをわくく少路うさふ
 恒介もあやゆんをわくくまはるく
 五箇此うけつ流らんくあまき体情
 水も眼のまきはれんやうまはるく
 うまはるくあまき体情のまきはるく
 一化
 杜鴻
 一化
 雪宝
 成年

葵

葵のふんをわくく少路うさふ
 恒介もあやゆんをわくくまはるく
 五箇此うけつ流らんくあまき体情
 水も眼のまきはれんやうまはるく
 うまはるくあまき体情のまきはるく
 一化
 杜鴻
 一化
 雪宝
 成年

花 葉

著 莖

一 八

麥 秋

おろしむ智抄のむすを吹き 三子雄
 下草のむ小蘇子ありあおろしむ 山 骨
 而し孔を著葉ふくまむ心やうり 法 氏
 木の葉をらうや著葉の葉に強し 隆 成
 一八ふ細くうらふくす直くま 大 柳
 一八中かんつて西根のくし 三 岳
 火をさうもくはあけ之麦秋 之 巻
 休んて了地流うりて麦秋 亦 生
 麦秋や掉代くくきくくく 秀 作
 子れおろし雀不明くく 麦 乃 秋 聖 曾

及七

麥 前

玉 卷 芭 蕉

風やうの吹はあけくくく 信 平
 麦秋北門やもく葉も一山 九 起
 麦秋や山くく踏は海は中 芥 金
 麦秋中門を陸東の体と葉知 雪 一
 麦秋や而すくを熱やゆき 一 隆
 麦前くくくくくく川り流 芳 葉
 那くくやまらくく麦秋前知く 下 吉
 秋より秋葉もくくく 月 庭
 玉巻芭蕉くくくくくく 風 骨
 玉巻くくくくくくくく 光 林

覆盆子

とうとうしんちんてきんちん 一具
 かしんしんしんしんしん 社々
 かしんしんしんしんしん 本海
 うけんしんしんしんしん 念之
 かしんしんしんしんしん 龍剛
 かしんしんしんしんしん 松海
 かしんしんしんしんしん 香子
 かしんしんしんしんしん 首磨
 かしんしんしんしんしん 定時
 かしんしんしんしんしん 物松

若葉

純りり

とうとうしんちんてきんちん 莊言
 かしんしんしんしんしん 見外
 かしんしんしんしんしん 光忠
 かしんしんしんしんしん 号病
 かしんしんしんしんしん 協足
 かしんしんしんしんしん 丹殿
 かしんしんしんしんしん 柳琴
 かしんしんしんしんしん 前令
 かしんしんしんしんしん 素臣
 かしんしんしんしんしん 素臣

若葉代花

朽木もささく地をささく。白代もささく。 丈叢
 温涼さあり代奇麗ふさふさるるささか 眉山
 赤に葉ささく。ささく。ささく。 杖藜
 おさうり。ささく。ささく。 懸池
 吹流る。ささく。ささく。 柳魚
 お代もささく。ささく。ささく。 龜洞
 余ささく。ささく。ささく。 由柳
 余ささく。ささく。ささく。 柳門
 ささく。ささく。ささく。 石
 枝ふさく。代ささく。ささく。 柳
 石

余花

若楓

新樹

楓。ひ。し。の。歌。ふ。さ。り。れ。て。さ。の。楓。一。化
 不。意。ふ。来。て。自。ら。世。安。や。さ。の。楓。而。后
 早。に。来。り。り。さ。り。り。さ。り。り。楓。亦。南
 此。葉。つ。て。夏。あ。う。つ。も。や。さ。の。楓。鼻。在
 早。柳。氣。お。う。け。直。天。ま。ま。の。不。懸。池
 新。樹。さ。さ。く。さ。さ。く。を。引。や。さ。の。瓦。石。水
 乃。も。け。て。ぬ。れ。牛。通。り。新。橋。の。お。山
 川。も。や。れ。ま。さ。さ。く。さ。さ。く。新。樹。の。石。石
 鉄。炮。の。さ。さ。り。あ。さ。さ。く。新。樹。の。石。石
 大。作。も。一。本。ま。さ。さ。く。新。樹。の。石。石
 石。石

木下閣

くろく葉

葉柳

葉櫻

後代葉乃體うくもや木下やと 柳室

下つるや河くもまらんもさくも 鳥吹

川舟を勝る可成葉も木下言 白鴉

くろく葉也あらく散る鳩の形 成子

くろく葉也あまたにらぬ花の如 追例

葉不葉もくふもあまらく柳系 多辰女

葉柳やお玉の末くく南里舟 良輔

葉柳也下やうらく之綱のおと 一徳

葉柳やまこれのうらる浪生しき 孝一

くろく葉や踏まつく島の柳直し 淨海

くろく葉もくあまきくくもくく 柳室

葉不葉やあまらくくもくく 一徳

葉不葉もくくくもくくをやく 柳室

葉柳やうらる人のくもく 柳室

葉もくくくや軟く波のあまらく 古松

川くくくもくもくもくもく 光世

山と波の波もくもくくもく 大夏

ゆく釣籠波もくもくくもく 柳室

葉不葉もくもくくもくもく 赤明

おろくもくもくもくもく 谷舟

櫻乃實

花

おろくもくもくもくもく 谷舟

おりまや入てり門此古きぬく
 思を
 布拍
 徐来
 海松
 曲阜
 嵩山
 吾意
 又介
 無意

桐り花

高き起さすま〜り〜り〜桐の花
 昇在
 花木お振をなき〜り〜桐此系
 迎空
 板す〜桐り〜り〜や板の花
 糸魚
 高き高き〜り〜桐り相乃花
 古槐
 高き〜り〜来〜木〜り〜桐此花
 青池
 袖〜り〜り〜り〜桐り花
 久壽
 中〜水北川お〜り〜り〜桐り花
 雪古
 高き〜り〜り〜り〜桐り花
 一清
 細〜り〜り〜り〜桐り花
 白鷗

淡乃花

花袖

柿の花

結ふくむ垣たしゆりや流のち	文哉
襟垂やきけ、流りお代とき	芳令
川うとふ志しりく善ぬ流れお	福如
おほふ事ぬお袖や一ちし	枕を
袖のおふおふおふり	兼こりこ
袖のおやをたふらうを流のう	枝丹
袖のおやぬこゆり流をり	雪常
流きし袖のおふふと流をふ	西了
流飛ええ何くく流のお袖のぬ	悪池
おろし流りふら多し柿花ふらり	由哲

推り花

音くものお流推りし柿花お	延向
お流りも流しゆ地や推りお	以菴
柿中ふらりぬ暮や推れお	ふ心
流し文流り流りし柿花をふ	松縁
小庭をふりけち流りし柿のお	不角
風しけ推りおちる浦家お	孝く
き山のさそ流りちるや推れお	以菴
流り流りのけけち流りや推りお	由角
まき流りお流りし柿花をふ	一具
晴天ふらりし柿花をふ	伯志

藪椿

岩梨

岩藤

花橘

しんりつてりてりやまつとてり

岩梨やうららわい焼くてり

岩梨やうらけりてり

岩藤やうらりてり

橘やうらりてり

橘やうらりてり

橘やうらりてり

橘やうらりてり

橘やうらりてり

橘やうらりてり

水

一

見外

位平

由哲

仙宗

風

一

丁

小

竹落葉

常盤木

散木葉

茂

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

種りてりてり

易

漢

丁

一

楮

竹

見

吹

子

子

笋

竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて
必山	糸糸	世路	丸起	眉山	杉林	物通	橋如	江三	笠岡

夏草

青芒

竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて
必山	糸糸	世路	丸起	眉山	杉林	物通	橋如	江三	笠岡

豌豆

竹篠の子

竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて	竹の子のやうな中をのびて
必山	糸糸	世路	丸起	眉山	杉林	物通	橋如	江三	笠岡

夏木立

せんとうやむしつらきしむをたけり
 由誓
 如く似ぬや新しきこり夏木立
 古李
 多きものなるこりけり夏木立
 浦島
 四五新れぬは汲場や夏木立
 海草
 赤い風の矢をこりけり夏木立
 浦山
 分入るこりけり夏木立
 若指
 而の如く新しき多き夏木立
 赤木
 遠くをこりけり夏木立
 柳絲
 遠くをこりけり夏木立
 清良
 旅人の夢をこりけり夏木立
 松崎

路

夢

郭公

ぬふハ

こころをこりけり夏木立
 赤木
 如く似ぬや新しきこり夏木立
 柳月
 舟楫小月新しきぬふハ
 又哉
 きこるをこりけり夏木立
 宿々
 里をこりけり夏木立
 遠路
 人の来ぬおとをこり夏木立
 夢
 赤き葉の如く夏木立
 出雲
 白くをこりけり夏木立
 山
 舟をこりけり夏木立
 夢
 月をこりけり夏木立
 乙姫

一あし山鳥の振るや節一
等々入るまゝにこれに付る
桂葉のまゝのまゝにやれまゝに
猫のこゝろもあつたに
うけりや下れまゝに
まゝにまゝにまゝに
憎まらぬまゝに
涼よまの振るや節一
そまゝに振るや節一
月よまの振るや節一

鳥 節 一 二
鳥 鳥
文 節
一 具
未 節
五 節
肩 一
白 節
目 節
心 節

鳴くまゝの振るや節一
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

閑 節
ま 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節
驚 節

閑味鳥

おのりくろくをくせうりあうんこぞ	あま
あまを別田を桂舟をう田子ぞ	見丸
町並はこれおゆやうんことぞ	而后
あま乃地もうきくはうんこぞ	百年
田をんを替たきうんこぞ	孝一
あま入の飯取川をあかんこぞ	一良
あま出のきんこの色や西子ぞ	酒松
山留まると是んをうんこぞ	新庄
あま若たきうんこぞ	石介
川の海に中を田をうんこぞ	仙風

行く子

叢切

老鷹

あやんをそくせ廣く行く子	春浦
川幅もまた龍を深く行く子	美山
鳴るあまをうんこぞ	悠子
行く子鳴るやうきを帰る子	杜若
お起もあはれうきを新子	青池
あまをまやあまを新をうんこぞ	佛月
あまをあまをうんこぞ	山舟
あまをあまをうんこぞ	叶児
あまをあまをうんこぞ	遠江
あまをあまをうんこぞ	香山

鴛音入
蝙蝠

蚊喰鳥

そらやうきさうしつと光を照らす	風光
木こころきや光を代わりしやう	不海
うきさうしつと光を照らす	杜若
きんぎょのうきさうしつと光を照らす	泉池
うきさうしつと光を照らす	由儀
うきさうしつと光を照らす	柳圃
蝙蝠や光を照らす	友甫
蚊喰鳥や光を照らす	美人
蚊喰鳥や光を照らす	舞妓
蚊喰鳥や光を照らす	舞月

羽 蟻

蜘蛛子

枝 蛙

拍子で羽蟻のまきとくや化格助	一丸
羽のまきとく蟻のまきとく	空三
つばき川や羽蟻のまきとく	美人
蜘蛛子とくや羽蟻のまきとく	尺山
蜘蛛子のまきとくや羽蟻のまきとく	江月
蜘蛛子のまきとくや羽蟻のまきとく	静退
蜘蛛子のまきとくや羽蟻のまきとく	山海
枝蛙のまきとくや羽蟻のまきとく	う大
枝蛙のまきとくや羽蟻のまきとく	子一
枝蛙のまきとくや羽蟻のまきとく	小角

初 鯉

初うつ不きふや車を引まき	賞人すそやけぬきの性や初松魚	晴天と初魚	初もりつるう中あも松魚り素	年くのみもとおもくと初あつ不	市橋て橋もれちうや松魚賣	初河うあもあ河うううあも	四神此初うもくとあぬ松魚り素	吹雪もあもあ初うううあも
保古	眉山	松年	見分	少風	三松里	池山	蓮宇	舟令

螢

一ひさあそおあうううあんうううあううあ	あう入あうあんきうううあうううあ	あううあもあもあうあうあうあ	あうあうやあうあうあうあうあ	ううあうあもあもあうあうあうあ	あうあうあうあうあうあうあ	あうあうあうあうあうあうあ	あうあうあうあうあうあうあ	あうあうあうあうあうあうあ
あう古	あう年	あう五	あう一	あう徐	あう一	あう常	あう初	あう初

蝸牛

枚本不きや兒乃乃りしあつるのよ
 ちりし月あつるあつるのよ
 形多女田は大きふちりあつる
 人中不しりしあつるのよ
 此もあつるあつるのよ
 長きあつるあつるのよ
 蝸牛乃あつるあつるのよ
 ちりしあつるあつるのよ

而后
 石介
 波作
 眉山
 志原
 林善
 茂雄
 碓石
 方珠
 物通

蝸牛

蠅

而あふしりしあつるのよ
 流流れやあつるあつるのよ
 ちりしあつるあつるのよ
 蝸牛やあつるあつるのよ
 此もあつるあつるのよ
 不しりしあつるあつるのよ
 川見やあつるあつるのよ
 人とあつるあつるのよ
 此もあつるあつるのよ
 標振くあつるあつるのよ

其後
 号石
 望山
 美田
 望之
 清兵
 定住
 由誓
 尺三

蛸

蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ
 蛸やけりりきあつてふ

子

子

子や魚も及こぬ者なり

魚

水

馬

川上へ舟をこりてゆく

水

鼓

蟲

蛸やけりりきあつてふ

蛸

墓

蛸やけりりきあつてふ

蛸

蛸やけりりきあつてふ

蛸

鶴川

ねんやまを眺むるに鶴川の穴
 音沈
 きかきりにあふらんを鶴川が
 舟月
 名なきぬ村さうしれを鶴川の穴
 う舟
 穴の流る山にさうさう鶴川の穴
 柳魚
 風を白鶴舟や波もしるるを
 晴江
 ちねぬく酒をさうさう鶴舟が
 雲丘
 鶴舟を像してさうさう鶴舟が
 一江
 川をさうさう鶴舟のめうりぬ
 稲如
 ち川風やさうさう鶴舟のとらさう
 如好
 ねんやまを眺むるに鶴川の穴
 且家

鶴舟

鶴舟

蓼舟
更衣

入ちのひ鶴の羽さうさうさう先
 舟作
 ち心さうさうさう中蓼舟さうさう
 看年
 ち舟さうさうさう似さう
 大柳
 きりさうさうさうぬさうさう
 舟山
 ち蓼舟のちも白さうさう
 道山
 ちさうさうさうさうさう
 井邊
 ちの蓼にさうさうの甘さうさう
 舟山
 人の舟さうさうさうさう
 舟山
 ち舟も又余さうさうさう
 舟山
 ちさうさうさうさうさう
 舟山
 見舟

初 裕

東	更なるふとむふも 乙 —	東
浦	人の釣魚人ふあつりあつりもつ —	志
雄	海山代えりしきれそそ初もつ —	杜
水	つりあつり世と英しし白うき糸	西
は	橋もを乗をらん山や白うき糸	文
酒	きふん毛糸ぬくりや白おき糸	松
月	若えぬ代海河うき糸や初裕	冬
魚	あふ山代人とおも河色そ川裕	魚
糸	初裕をよゆ又初代俣ひり初	糸
巻	初裕をよゆ又初代俣ひり初	糸

白 重

裕

青	もを裕裕も人の眼も何れ	青
比	袖しちちち裕代あやも川裕	徳
若	初裕うき糸も若うししりつ裕	若
衣	橋人ふししちちちちち川裕	井
下	孫やもちや乗あれらそ川裕	井
女	街もちとちと人ち — ちち裕	下
松	若うき糸と世いしちちちち裕	松
山	裕もくち若ちちちちちち裕	山
杜	裕もくちしきんちちちちち裕	杜
志	生えりちちのち裕ち裕ち裕	志

綿 枝

裕若るゝ所をよめりやさう所黄
 裕若るゝ代をよめりや一赤円
 めきらんふ所をよめりや
 縁めき代をよめりや
 縁めきやむふ所をよめりや
 枝より所をよめりや
 もり所のつらりよめりや
 まい入のま出りよめりや
 支亦すゝ好むのつらりよめりや
 枝より所のま出りよめりや
 裕若るゝ所をよめりや

一黄
 一赤
 一白
 一青
 一赤
 一白
 一青
 一赤
 一白
 一青

新 茶

新 麥

新茶やまをよめりや
 新茶や非代初結も大つらり
 新茶や又もまをよめりや
 新茶やまをよめりや
 新茶やまをよめりや
 新茶や非代初結も大つらり
 新茶や又もまをよめりや
 新茶やまをよめりや
 新茶やまをよめりや
 新茶や非代初結も大つらり
 新茶や又もまをよめりや

一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真
 一真

鮎

冷一酒

鮎
 冷一酒
 鮎
 冷一酒

一
 一
 一
 一

早き

早き一やのしほのきとぬらある

由破種

柱き

柱き一やのしほのきとぬらある

一由

一夜鮎

一夜鮎一やのしほのきとぬらある

一由

風爐の茶

風爐の茶一やのしほのきとぬらある

一由

筑摩祭

筑摩祭一やのしほのきとぬらある

一由

葵祭

葵祭一やのしほのきとぬらある

西曙

羊花

羊花一やのしほのきとぬらある

光東

催佛

催佛一やのしほのきとぬらある

九都

催佛一やのしほのきとぬらある

昇を

佛生會

ちくまのたふのえんやんや仙生云 野を
 四の春はるるーも人あり 仏生云 一化
 父母もあつーしはるの生れ給 泉池
 あほうのあつーるさあえき 石蓋
 心もあつーるさあえき 雨取
 垂心のあつーるさあえき 杜鳥
 ちくまのたふのえんやんや 鳥か
 一うけかたふをさーくおえき 寺堂
 瑞雲ふさふさーさーさーさーさー 文筆
 ちくまのたふのえんやんや 樹園

花見堂

花摘

夏入

梅はあつーるさあえき 入場のちん 一合
 夏入つーるさあえき 到るさあえき 月

夏花

梅のうらる梅や夏花の角 ことさ
 ちくまのたふのえんやんや 梅夏花の角 秋鳥

夏書

水中のうらる梅や夏花の角 且松
 ちくまのたふのえんやんや 梅夏花の角 木松

夏籠

ちくまのたふのえんやんや 梅夏花の角 木明
 ちくまのたふのえんやんや 梅夏花の角 木松

青簾

ちくまのたふのえんやんや 梅夏花の角 木松

月のさびに二のさきしれつまきうし目し
 月れ出さううしれ紙向やま心炭
 燈のまき付てもまきの源し長藤
 吉子さぬ風の吹ぬり長きまれ
 又列まきうし又問の甲うし長藤
 若女
 雪取
 由信
 木例
 眉山

五月

五月

大井ふ人う午ううし五月うあ
 中くふまきうし五月うあ
 ちりうし五月うあ
 臨ふあて水のあうし五月うあ
 晴は秋あを五月のあうし
 赤櫻の二やまきを五月うあ
 正人の百枝あ五月うあ
 店七人のうし五月うあ
 茶もあうし五月うあ
 物家
 透洞
 百丈
 初橋
 其う
 其心
 物磨
 破路
 田付

端午

茶のり日

職

茶玉

龍口をくぐりて茶も皆日... 茶田
 茶を中へて掛る茶... 一畑
 茶焙りにちうひぬ... 閑那
 中へぬお中の人... 茶代り
 茶へけちまき... 井里
 非風の吹や職の... 一具
 中へぬお中を... 一畑
 ... 有石
 茶玉やお中... 布山

印地打

虎の雨

入梅

五月雨

龍口をくぐりて... 岩田
 木うま... 布山
 虎... 欽山
 雨... 松所
 梅... 秋山
 入梅... 井里
 入梅... 糸白
 ... 由哲
 ... 梅長
 ... 大

五月晴

築山の露の清き紫花五月あゆみ 松葉
 花をうらむるもあやしい 五月石 雲
 さらば川や折る水も重なる井 雲
 ささげや擧ぐると来る水の心 柳の
 ちがふ折り折るや云りる 一法
 ささげ擧ぐると大川を垣の介 此平
 ささげ擧ぐると深き水も城まわりの 幼衆
 ささげ擧ぐるとはるばるささげ 杜鰲
 ささげ擧ぐるとあるまじきところ 鍾月
 井の中ふちをささげ川や五月晴 貞山

五月曇

船風

船のうらみの船のあつと五月晴 山雲
 小舟よきをぬるささげや五月晴 松島
 航つと舟の文はの 五月晴 舟子一
 ささげ擧ぐるとはるばる五月晴 源松
 擧ぐるとはるばる五月晴 滝意
 市中ら折る水も重なる五月晴 雲
 大粒不相た五月晴 一雲
 舟と舟と五月晴 雲
 舟のあつと五月晴 雲
 舟のあつと五月晴 雲
 舟のあつと五月晴 雲

黒く

黒くつや大をい色と切りし魚

肩山

半夏生

黒くつや大をい色と切りし魚

双鷲

草蒲葺

黒くつや大をい色と切りし魚

古武衣

黒くつや大をい色と切りし魚

移る

黒くつや大をい色と切りし魚

魚の

黒くつや大をい色と切りし魚

去櫓

草蒲賣

黒くつや大をい色と切りし魚

黒く

草蒲湯

草のつく細くけし中草蒲葺

月桂

草のつく細くけし中草蒲葺

松竹

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

花つ

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

真蕨列

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

田植

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

草のつく細くけし中草蒲葺

一丈

早し女

あし女や青の波きくちよにきりやう	五代
ま中ふまをりくつはくまをりやう	長生
新川や新あもみなりれり	半後
新風や新あもみなりれり	日影
新あもみなりれり	恋
加賀川や新あもみなりれり	九起
大木の水は新あもみなりれり	早
新あもみなりれり	未
押しは新あもみなりれり	清
新あもみなりれり	後

早苗

あし女や青の波きくちよにきりやう	五代
ま中ふまをりくつはくまをりやう	長生
新川や新あもみなりれり	半後
新風や新あもみなりれり	日影
新あもみなりれり	恋
加賀川や新あもみなりれり	九起
大木の水は新あもみなりれり	早
新あもみなりれり	未
押しは新あもみなりれり	清
新あもみなりれり	後

早苗舟

あし女や青の波きくちよにきりやう	五代
ま中ふまをりくつはくまをりやう	長生
新川や新あもみなりれり	半後
新風や新あもみなりれり	日影
新あもみなりれり	恋
加賀川や新あもみなりれり	九起
大木の水は新あもみなりれり	早
新あもみなりれり	未
押しは新あもみなりれり	清
新あもみなりれり	後

田植唄

菱り花

川 骨

新のまよふ入りのしや田植唄 赤松
 まつたまのふきや田植唄 柳井
 網のまよふ池とんころり菱り花 里橋
 引つけろあまのまよふ菱り花 西馬
 ねえ海松まよふ川骨 額山
 川骨のまよふ川骨まよふ川骨 松嶋
 河筋のまよふ川骨まよふ川骨 うき
 河筋のまよふ川骨まよふ川骨 土屋
 川骨のまよふ川骨まよふ川骨 山
 川骨のまよふ川骨まよふ川骨 山

藻り花

藻 列

藻

もろのまよふ藻り花 多女
 藻のまよふ藻り花 杜松
 もろのまよふ藻り花 山
 もろのまよふ藻り花 山
 小島もろのまよふ藻り花 山
 何れもろのまよふ藻り花 山
 藻のまよふ藻り花 山
 藻のまよふ藻り花 山
 藻のまよふ藻り花 山
 藻のまよふ藻り花 山

花菖蒲

紅り花

紫陽花

薄中を覗くときこそ見るに
 ありては所をわたりあはれ
 垣取りしとけりし一旬ふあやかし
 持人も人こそ奪りや取りし
 取つては跡目もふくむ小一時
 あらわぬや紫の帯はあやし
 紫陽花のや口をわたりあはれ
 紫陽花のや口中に成るる花の何れ
 紫陽花のや今もささぬ花の何れ
 ありてはわたりし花一さうす
 影を
 折通
 清世
 仙菜
 日暮
 空を
 あり
 身を
 一
 草子

百合花

薔り花

ありてはわたりし花の何れ
 あらわぬや紫の帯はあやし
 紫陽花のや口中に成るる花の何れ
 紫陽花のや今もささぬ花の何れ
 ありてはわたりし花一さうす
 影を
 折通
 清世
 仙菜
 日暮
 空を
 あり
 身を
 一
 草子

夏菊

梅子のやちのふらふら川や若のや
 貝面やうさのうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 梅子のやちのふらふら川や若のや
 貝面やうさのうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや

瞿麥

石菖

酸漿

南天花

梅子のやちのふらふら川や若のや
 貝面やうさのうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 梅子のやちのふらふら川や若のや
 貝面やうさのうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや
 夏菊や秋のうさのや若のや

撫り花

合浪花

合歡花

栗り花

南天のおもひなり 四十雀 一雀

のちのちや産たふきりぬ 北唐

のちのちもいんせりぬ 和 和

葉おのちやいんせりぬ 止如

植ふよおもひなりぬ 日眉

中きよあ代あゆむぬ 悠水

吹風をとおもひなりぬ 由哲

即ちや合歡のうらむ 悠水

順神のさき 和 和

介ふんのおもひなりぬ 和 和

柘榴花

樗花

青梅

遠のちのちやいんせりぬ 柏翠

葉おのちやいんせりぬ 柘榴

植ふよおもひなりぬ 一雀

新のちのちやいんせりぬ 悠水

川にのちやいんせりぬ 万利

月をのちやいんせりぬ 留木

青のちのちやいんせりぬ 和 和

古のちのちやいんせりぬ 悠水

葉も深き古のちやいんせりぬ 悠水

葉も深き古のちやいんせりぬ 悠水

竹植日

結いまるく掘ひの垣やと年竹	お山
かりのゆくやをせおたりと一竹	大長
白く飾る葉を人代きくやと年竹	ふ角
伸してと葉あもをれと年竹	煮心
伸と向く一葉あやしと一竹	樹根
裁くやと風のまぬり	肩伝
そくくしと伸るやあやと一竹	茶豆
植て見た竹よさくると一竹	秋唯
市植るもしるぬくくと伝あれぬ	尾村
外植る月とをなりぬ伝の首	白鷲

蟬

竹植る一風よさくるとの子際うあ	又柳
新顔も葉も伸れれ竹植る	う花
植てある竹もをれぬや竹を風	雪水
樹くまの竹もぬきるや樹の影	鳥を
さく鳴るや石を集つくとあれ伝	う前
志すしと葉や樹あも新くと竹	虫平
庭板や樹れ取つくと年竹をよ	玉骨
あやしくしと伸るしはさく竹を	杜酒
ぬるるは木下にんして樹り新	枝月
さく鳴るや七つしと樹るさくぬ葉	玉座

うらたよ

あつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

柳山

名の人一際あふる鶴う市

性急

ま嘴を親しつてあつあ鶴う市

孝一

まのよれ世ふつと目や女成り

乙良

うらたよやあえささる海より

風調

うらたよ中流あふるあはのあ

百古

羽抜鳥

開く窓よりあふるあはのあ

白起

まのよれ世ふつと目や女成り

孝一

鹿乃子

うらたよあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

林書

まのよれ世ふつと目や女成り

冬安

冬安

福の将

めけてあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

芝石

小なうらたよあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

孝一

うらたよあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

芝林

拍ふれあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

茂桂

まのよれ世ふつと目や女成り

拙徳

伐株の御をまあれと福の将

彼光

照射

まのよれ世ふつと目や女成り

赤島

めけてあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

鳥石

うらたよあつらふおを等し乃くはあ鶴ふ

物一

火串

山のお代供えささる海より

清徳

小 粽

東山やあつふ天串はをり	源松
火串さくらもつう山や中をささる	お山
更けりや火さくふたさき樹の糸	西門
さくらあもたけはあや小餅 葉	気路
さくらあもたけはあや小餅 葉	目影
結びはけりてつらさの節をこねる	一介
紫代はけりてつらさの節をこねる	赤松
折えてあつふささるけりて	肩田
さくらあもたけはあや小餅 葉	お山
さくらあもたけはあや小餅 葉	仙林

及四二

拍 餅

惟 子

さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	且堂
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	一介
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	秋喜
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	多美
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	生鶴
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	双松
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	晴江
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	目影
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	福丸
さくらあもたけはあや小餅 葉	拍方ら	肩山

夏衣
單物

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

薄羽織

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

夏羽織

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

辻の花

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

競馬

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

有無日

恒々たる風此處へ吹く夏衣も
魚のさく所へあしし〜
由誓

三好一のりや思ふきん博のり
五

六月

六月

六月や風蟻 <small>いさふ</small> ささ <small>さ</small> す <small>す</small>	万俵
六月や赤を中河町 <small>あか</small> を <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 柳 <small>柳</small> 除	蘭井
六月や空や中河町の河を河 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small>	多々女
六月や空を河を河 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 魚 <small>魚</small> の <small>魚</small> 境	肩雪
六月や人のまきんをあてうへ	柳樹
六月や言ふも白く又 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 一 <small>一</small> 言 <small>言</small> 事 <small>事</small>	杜鰲
六月や言ふも白く又 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 一 <small>一</small> 言 <small>言</small> 事 <small>事</small>	天来
六月や主婦 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 家 <small>家</small> の <small>家</small> 位 <small>位</small> と <small>と</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small>	可成
六月や言ふも白く又 <small>あ</small> ら <small>ら</small> ぬ <small>ぬ</small> 一 <small>一</small> 言 <small>言</small> 事 <small>事</small>	志丸

水無月

氷室

此を所ておもひんぬ氷室の事
 鳥村
 新見や氷室供ひの杖より
 大鵬
 八邊一と日南燕一と氷室の事
 氷室
 世をひたつともちひ氷室の事
 不角
 一筋れ乃そりよふや氷室の事
 泉丈
 氷室も神は供ひふ何とる事
 泉丈
 解とる白ひの何とるや夏
 此
 皆よらまらつともひふ焼一と夏
 乙良
 尺ぬらられ心まらつ一と夏
 松竹

夏氷

氷室寺

炎天

炎天や并みまらるる
 洞の湯
 炎天や并みまらるる
 洞の湯
 炎天乃おやまらるる
 必山
 炎天やまらるる
 不角
 炎天やまらるる
 梅圃
 炎天乃おやまらるる
 有池
 炎天乃おやまらるる
 相古
 炎天乃おやまらるる
 知空
 炎天乃おやまらるる
 一
 炎天乃おやまらるる
 蓮房

暑き日

あつさ

日盛

何事も交て痛くもあつては
 舟の帆はほくあつたぬ暑さの雨
 帯とけを砂にさらす暑さの雨
 音月に雲の暑さし知れぬ暑さ
 夕陽の影も大編香の暑さ
 新ひの川も夏つて夕引のつま
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる

風薫

何事も交て痛くもあつては
 舟の帆はほくあつたぬ暑さの雨
 帯とけを砂にさらす暑さの雨
 音月に雲の暑さし知れぬ暑さ
 夕陽の影も大編香の暑さ
 新ひの川も夏つて夕引のつま
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる

月涼

何事も交て痛くもあつては
 舟の帆はほくあつたぬ暑さの雨
 帯とけを砂にさらす暑さの雨
 音月に雲の暑さし知れぬ暑さ
 夕陽の影も大編香の暑さ
 新ひの川も夏つて夕引のつま
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる

夏乃月

何事も交て痛くもあつては
 舟の帆はほくあつたぬ暑さの雨
 帯とけを砂にさらす暑さの雨
 音月に雲の暑さし知れぬ暑さ
 夕陽の影も大編香の暑さ
 新ひの川も夏つて夕引のつま
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる
 日さるるや秋の秋も成るる

露 涼 納 涼

相中此新行をまじりや夏は月 宇巻
 と敷く魚賣都りや夏乃月 楚佩
 人形此ちまじりてあまの交は月 月人
 情を何と信くおまのぬま乃月 世松
 夏乃月ゆき何とあめを重なりや 大
 露をさしを新をまあれて夏は月 泉を
 うそをぬきやしてあて夏は月 命を
 あまのさしぬきやしてあて夏は月 世を
 涼中も露のあまのさしぬきやして 柳千

片更や信愛出りて夕暮るこ 社水
 春暮る川原くうらふす美く春 泉を
 秋暮る川原くうらふす美く春 小流
 春暮る川原くうらふす美く春 美田
 夏暮る川原くうらふす美く春 編知
 秋暮る川原くうらふす美く春 柳園
 春暮る川原くうらふす美く春 一池
 秋暮る川原くうらふす美く春 美人
 春暮る川原くうらふす美く春 美人

涼と臺

青のよみき斗も涼し 船世帯 未孤
 十のよみき斗も涼し 山 山
 奴のよみき斗も涼し 一信涼し 荷指
 眼のよみき斗も涼し 破おし とき座
 ふれやふれ涼し 寺言 樹皮
 十のよみき斗も涼し 拾ふ 圭布
 ぬききてんれら涼し や丘の家 物笑
 人強きとれつとやぬききてんれら 一冬
 ちゆり門とてふふ涼し やまきき巻 大巢
 片何れか加茂のあまや涼し 巻 一燈

涼舟

青嵐

一世界入世ても多し 肩山
 四代やのききとてやまききとて 雪光
 白鷺のけりおしや青嵐のけり 其世
 是れおしはまききとてやまききとて 可紀
 沙川や藤上吹あふるまききとて 了巻
 来世もよみき斗も涼し 杜水
 そと吹や日枝あふるまききとて 楳見
 魚可もよみき斗も涼し 一止
 大空もよみき斗も涼し 水鏡

雲の峰

夕立
 雨はふらふらと降りて来てはまたやむことなしの
 夕立は昔はともすれば雨の嵐と云ふ人もありけり
 雨降るにやむるはまじきことなりけり
 昔は雨にやむるはまじきことなりけり
 雨降るにやむるはまじきことなりけり
 雨降るにやむるはまじきことなりけり

打水
 水は打ちて飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり
 水は打ちて飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり

は松

大茶

新水

水

原村

水

編組

柳園

柳園

柳園

清
 水
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり

清水
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり
 水は清く飲むは清く甘く味よくさっぱりして
 飲むにはうまい味なりけり

昔茶

柳園

京沈

柳園

柳園

水

柳園

水

源村

水

泉	夏川	夏山
昔陽の形をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏川や海をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水
抱徳	眉山	大徳

夏野	夏川	夏山	夏川	夏山	夏川	夏山	夏川	夏山
夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏川や海をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏川や海をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏川や海をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏川や海をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水	夏山や霧をたゞして注ぐ泉 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水 山脈の間に湧く水
大徳	眉山	大徳	眉山	大徳	眉山	大徳	眉山	大徳

土用干

土用干 土用干 土用干 土用干 土用干

土用干 土用干 土用干 土用干 土用干

土用干 土用干 土用干 土用干 土用干

土用干 土用干 土用干 土用干 土用干

虫干

虫干 虫干 虫干 虫干 虫干

虫干 虫干 虫干 虫干 虫干

干

干 干 干 干 干

干 干 干 干 干

干 干 干 干 干

嘉定

嘉定 嘉定 嘉定 嘉定 嘉定

嘉定錢

嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢

嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢 嘉定錢

草

草 草 草 草 草

草 草 草 草 草

草 草 草 草 草

竹婦人

竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人

竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人

竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人

竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人 竹婦人

籠枕

くものきりぎりす 秋の夜のさだめをいふ

一三 籠枕

夏瘦

夏やきつやを秋の夜にいふ 白木様

松隣

秋待

つとむらん秋を待たぬ 恒代竹

前仰

秋隣

秋の隣りや秋を隣りの三つに月

鼻を

秋近

秋の近きや秋の遠きや秋の隣り

一七

夏深

夏の深きや夏の浅きや夏の隣り

又夏

夏別

夏の別れや夏の別れや夏の別れ

肩山

蓮

蓮の花や蓮の葉や蓮の根

吹越

池のほとりや池のほとりや池のほとり

一人

新緑のあなをうらむ 道中

一七

旭ふさふさ 一重の白 道の白

而后

道の白く 道の白く 道の白く

小橋

浮
浮

白雲のふよふうらうらうのさうす	知風
たしめき風やおくささ白く入	去取
東の人かおれし備中道はむ	母子一
人形をたすく耳あれは道のお	英確
道はそ船の号人母はし一電のま	眉是
うさしき浅ゆれおそあし道のお	文翠
こり水もほ染ふうけささるのあ	看山
浮海中浪よまふれそ染れむつそ	一境
浮くや思ハるる乃おのつや	白豹
おのろくや寄るくきあそあそあ	眉是

夕
顔

昼
顔

申山寂ふ柳ゆるるもささうくくふ	下知
申ふらふ都ふたきし一住取ふつ	長を
りうらやつはあしあれ二重柳	高丈
夕顔や床はたう一のあしひ鏡	作丸
夕顔も鏡よささるやむのる	茶雷
夕顔中故きうらり新ふんこ五	赤室
まらるや志をうしきささあつら	赤山
才高の習をこき新のまうらうあ	一燈
ささうらや人のあぬ習を笑ふのあ	鳥朴
まらるや志は来の人通る	鳥人

綿花

こころややわら子の子ねは
 おうき来たる綿花のきや
 はその花のふあね綿一
 るきくききききききき
 りや甲のきききききき
 紫藤のきききききき
 おるのきききききき
 水方にてきききききき
 若荷のきききききき

角山
 綿花
 紫藤
 若荷
 白土

紫藤

若荷花

虎杖花

麻

菅荊

青田

綿杖もきききききき
 麻のきききききき
 菅のきききききき
 青田のきききききき

田
 雲
 一
 鳥
 由
 持
 担
 音

瓜	小豆角	田草取
瓜の多や好店の多うの京所 標比来く一日退う瓜の考る	取まら一四うも愛比ゆらう 送さゆま雀のとゆら小豆の角 こうさ水て風よ巻まやさけ酒 実をおそらうらうと蔓や植の瓜	立播やうき水のぬまを田うぬ 夕う什も門うう出あうま田うぬ 眼さるまやま田の中比一ちうけ くさく来くアう巻何うま田うぬ 木うら水てよき家巻やま田哉 植う布く大勢と出れ田竹いを 取まら一四うも愛比ゆらう 送さゆま雀のとゆら小豆の角 こうさ水て風よ巻まやさけ酒 実をおそらうらうと蔓や植の瓜
瓜記	眉山	京記

蔓の花	甜瓜	冷瓜
蔓きうう川もつうえん巻のあ 迎り思吹す備一うう巻比あ あまけり一巻のゆや巻比あ 紫比うけふ巻て備一や巻のあ	をう一また板写ころうん巻葉か まきうう川もつうえん巻のあ 迎り思吹す備一うう巻比あ あまけり一巻のゆや巻比あ 紫比うけふ巻て備一や巻のあ	瓜の多や好店の多うの京所 標比来く一日退う瓜の考る 市中や好店水う一巻ゆ一瓜 ふふ巻うむくふ葉や冷一瓜 思うへくわ比自のあう巻葉りあ をう一また板写ころうん巻葉か まきうう川もつうえん巻のあ 迎り思吹す備一うう巻比あ あまけり一巻のゆや巻比あ 紫比うけふ巻て備一や巻のあ
瓜記	眉山	京記

凌霄

車馬代印ふききぬ 一 号のいふ
 車井も底のふんそり 凌霄が
 凌霄やあふけりくのりて
 凌霄や吹矢をくれそり代都
 皮らそり木ふきりて 凌霄が
 山形、初穂さるし 子光
 雲をけりて 彼のうきさうへり
 多きふりて 又のふりて 不波
 のふりて 又のふりて 旭若
 行列代印を補ひ 予を催り 月鼻

早挑

林檎

練雲雀

火取虫

川狩

夏虫

毛虫

獲るもそりてぬ 火取虫
 獲りて 亦さききぬ 一 痛
 多きふりて 又のふりて 不波
 のふりて 又のふりて 旭若
 行列代印を補ひ 予を催り 月鼻
 夏虫
 毛虫
 川狩
 不及

氷餅

川らふや素石おろしに 一とち 拍子

雪の上のふゆ末とち 一とち 雪

酒好むももりや 水女 寿乐

雪のまきの雪とち 水曜 柳実

あつたさき 那のあつた 一とち 龍也

そけとち 一とち 竹堂

月おろし 一とち 看雪

雪水や 一とち 万世

雪水や 一とち 定依

遠とち 一とち 美雄

心太

葛水

一夜酒

冷麥

吸ふよと 一とち 一とち

ろとち 水の新巻やとち 二丘

冷麦や 一とち 梅水 其乙

冷麦や 一とち 月代雪 好甫

樹てんきとち 一とち 落松

干梅や 一とち 鏡也

引梅や 一とち 南光

利梅や 一とち 井上

高とち 一とち 由誓

月とち 一とち 京池

富士詣

沖鱈

干梅

煮梅

冷麥

祇園會

海にのびたあまのさやぶに信 交水

祇園をやぶる風吹く人中 由聖

祇園をよぶる人けりあきく 清石

冠をくすくす花をうり 絆の足 貞祇

旅人やうりぬ絆をえりてふく 物魚

まをけりてあきく絆の上 涼松

水木をよぶるまをいりてふ 能力

下をくすくすあきく絆のさきこふ 蓮宇

けりてあきく絆をえりてふく 物魚

けりてあきく絆をえりてふく 物魚

けりてあきく絆をえりてふく 物魚

絆

座頭涼

鞍馬竹切

竹切や竹のけりてあきく絆のさきこふ 物魚

雨乞

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

あきく絆をえりてふく 物魚

御被

歌代

あきく絆をえりてふく 物魚

芽の輪

夏神樂

雷陣
施米

龍一とや龍山と移れ又一つ正
 水善
 袖とさるあはれ泣てちしとふ
 孝一
 入つて来しあはれはなまの芽輪
 龍益
 松林のすく移れ芽は跡の
 而先
 夏神樂あも思ふ人柄うふ
 一々
 甲子人もあえし小里や夏神樂
 百良
 為る所ふ亦竹はすや夏神樂
 祖心
 雷陣除中節とくくく
 莫之
 年々とてう一高性や施米付
 平高
 ころとてくを春くくくは施米くふ
 泰山

風流四季發句嘉高
 隨義高野師直

堀江玄持

堀江嘉太郎資義

露

上

開

天

地

地

地

地

橋

遠

遠

遠

遠

遠

仰

仰

仰

仰

仰

仰

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子